

第8回公共交通分野におけるオープンデータ推進に関する検討会
議事概要

1. 日時：令和元年5月28日（火）14：00～15：50

2. 場所：3号館11階特別会議室

3. 議事概要（委員からの主な意見）：

○主催者側がデータの整理をして提供したということが非常に良かった。これは実証実験だが、こういう方向性で今後、実際に活用を推進していけると良い。

○実証実験では、事業者から出していただくデータは必ずしも全部同じ形ではないため、主催者側においてある程度整えるということができる範囲内で行ったところ。一元化することのさらなるメリットというのは、データ形式の技術的な問題だけではなく、契約やプロセスが一元化されるといったメリットが大きい。

○一元化というキーワードが多く出てくるが、オープンデータというのが交通事業者から開発者、企業、実際に利用者に届くまでの段階を幾つか見たときに、ある部分は分散的であったほうが良い、ある部分は一元化のほうが良いなど、様々な視点で捉える必要がある。

○一元化については、ワンストップという言い方もある。特定の1箇所だけがそういった公共交通データを出すという意味ではなくて、それぞれの社でバラバラに出ているものをある種セットで提供できるという考え方である。

○フォーマットの議論では、交通事業者に対する負担がかかるため、コストの点も含めてなかなか難しいということはそのとおりだが、標準的なバス情報フォーマットのようにいい面もある。オープン化、標準化、両方によって効果が出ているということがある。

○公共交通というのは、極めて公益性が高く、国土交通省の認可のもとでやられていたり、公共の資産の上で行われている事業であるといった側面もやはりある。オープンデータとしての公開が不可な情報に対する限定公開の仕組みという話があったが、非常に示唆的である。また、データの提供条件を明らかにすることは、有償提供においても非常に重要な観点である。

○データの提供形態について、例えばこれは無償だが、これは有償といったような話について、ある程度事業者の意向が尊重されるとすれば、いろいろなオプションが用意されるというのは、交通事業者としては大変取り組みやすい。

○今後の形で気になるところについては、データのメンテナンスについて、今後どういう対応をしていけばいいのかという課題がある。

○ビジネスとしての移行を整理するような意味でのワンストップという考え方もあるし、もう少し話を広げると、地下街とか、人間のアクセシビリティを高めるという観点の話も残っているし、2020に向けてはいろいろな観点から進んでいかなければならない。

○2020年に向けてという意味では、東京公共交通オープンデータチャレンジも1つの方法であり、いろいろなものを組み合わせて、最大限、オリパラには貢献していきたい。

○オリパラの観客と東京の生活者との間のところでうまくその辺の情報を出すことによって、結節点における混雑緩和みたいなところに対して協力できるのではないかと。

○MaaSにおいては、何らかのところで公共交通の協調領域をつくっていく必要はある。そういった中で、オープンデータの役割は非常に大きいと考える。是非、公共交通だけでなく、協調領域のかなり重要なキーパーツであり、大きな役割として育てていくべき。

○MaaSの中で乗換案内のようなものがどういう立ち位置となるのかを考える中で、マイカーから公共交通の利用促進というところもあるので、利用者を増やすところの一翼を担うような形でオープンデータを使っていくことが、サービスプロバイダーの役割ではないか。

○データの活用、データユーティライゼーション促進については、①データにアクセスできないこと（これはオープンデータというのが1つの解決策になる）、②そのデータが使えるようになっていないこと（標準化や一元化の議論にもあったが、百者百様では困るが一元的にするのも問題があり、適当な道を見つけていく必要がある）、③ビジネスとしてお金を回すこと（何らかの形で、無償のものは当然あってもよく、有償化によってデータでビジネスができるようにすること）、④社会的容認が得られること（いろんな場で、こうやってデータを使って社会全体のためによくするというのを産官協力して社会に問うていく必要）、といった壁があり、②までは壁が破れてきているのではないか。

○地方都市というのも今回大きなテーマになってくると感じている。地道な実証とか実装、これも非常に重要だと感じる。特に大都市においては、混雑部の経路検索とか交通の整流化という様な大きな問題があるが、地方というのは、むしろ交通機会の拡大とか行動の多頻度化ということで、どうやって需要を創造するか、あるいは高齢者の人が外に出る機会をつくっていくか、こういうところでオープンデータがどのように活用されるのかということが大きなテーマになってくる。

○技術の発展というのはすごく早く進むが、データとかインフラを整備していくとか、そういうことはそれなりに長期間で考えないといけない。一つ一つのデータの出し方とかを議論すると、やはり時間がかかる。インターネットもやっと30年、40年たって今のビジネスになってきている。そのような観点で今後スマートシティなどについても目配せしていくことが非常に重要である。

以上（文責 事務局）